

カレッジ里山 花実の森 活動報告(2018年7月-2)

記念の
第100号です活動日
2018年7月22日(日) 時間
9:30~12:30天候
(晴)記録者
(菅田)公募参加者
10家族28名
スタッフ11名(スタッフ) 磯野彰夫 松本治美 小林澄夫 俵貴志子 橋野美子
山田喜義 田路義弘 塩ノ谷年子 南木久枝 片岡隆夫
菅田 忠志今回実施した
内容

親子カブトムシ生育観察会(2018年第2回 成虫観察)

親子自然体験型環境学習として企画し、(公財)こうべ市民福祉振興協会の協力を得て公募した2018年度『親子カブトムシ生育観察会』、年間を通して里山に棲むカブトムシの生育観察をしながら、里山を知り学ぶイベント。今回は3回シリーズの2回目。

里山内の観察小屋へ成虫観察(成虫探し)と、見つかった成虫を子どもたちに持ち帰ってもらい、自宅での飼育観察をしてもらうこととした。

また、今回は余った時間で『小枝クラフトづくり』で、カブトムシやいろいろな小枝工作を楽しんでもらい、夏休みの宿題工作にもなった子どもたちもいた。

写真記録…一部グループわ本部(広報)の撮影動画から引用させていただきました



参加者の受付がはじまる。班分けされたカラーシートの名札に自分で名前を記入



里山内での作業に備え”安全第一”と今回も安全ヘルメットを配って着用してもらう



今回の観察会がカブトムシの一生の中でどんな時期なのかのおさらい説明を受けて…



安全にカブトムシ探しと観察をしてもらうための注意もしっかり聞いてもらう。

☆里山の中はほぼ全体が木陰になっており、この場所より気温は低いけれど、それでも途中でしっかり水などを飲むんだよ。

☆腐葉土を掘りおこすときは、必ず手袋をすること。ムカデも土の中にすんでいるから数匹出てくるよ。

☆今日はみんな長そで・長ズボンだよ。それなら大丈夫。蚊取り線香は準備しているからね。



さあ 里山に入っていくよ。



子どもたちが見つけたカブトムシは、一旦このケースに入れておく。



周りに目をやり、きょろきょろしながら歩くんだよ～。めずらしい葉っぱや、昆虫、使い終えた小鳥の巣にも出合えることができるかも。いいにおいの木があったり、つるつる・ざらざら・とげとげの葉っぱも見つかるかな？「見る」「触る」「匂う」「聞く」「味わう」⇒5感を活かした観察も大切だからね。



観察小屋に到着。
5月の第1回観察会時に、下の産卵場所で育っていた3齢幼虫を、ここへ引っ越しさせたがうまく成虫に育っているかな・・・。



カブトムシの成虫探しをはじめよ～。
一度に全員が入って探すのは無理なので、班ごとに分かれての作業。
順番や作業で気を付けることなどの説明を受けて『成虫探し開始』



やさしく探してあげるんだよ。屋の間は土の中でも底の方にもぐっていると思うからしっかり掘り起こしてみて。



「あっ いたあ！」「また見つけたあ」
どんどん見つけ出す子どもたち。やっぱり大人たちより見つけるのはうまい。



見つけられたら交代しながら探してもらい、どんどん見つけていく。用意した成虫入れのケースの中ではにぎやかに動き回る成虫。今年も子どもたちに人気のオスが多いようだ。

さあ 持ち帰って家で飼育するカブトムシを順番に
選んでケースに入れていくよ～。



今年度も子どもたちには“子ども夢基金”の助成金で飼育ケース・エサ類をプレゼント。みんな大切に持ち帰ってもらった。



しっかり飼育していくんだよ。
しっかり観察もして、
君たちからのカブトムシスケッチも待ってるからね。



今年も家族単位で2匹ずつ持ち帰ってもらうことができた。

観察会後半は、ひよどり研修室に移動し
【小枝クラフトづくり】



サンプル

よ～し、今から小枝でこんな工作をしてみよう。ツノ、アシ、カラダ しっかり観察して上手に小枝を選んでカブトムシやいろんなクラフトを作ってください。



サンプルを参考に
材料選びから



当初は、観察場所でのクラフトづくりを考えていたが、今年の猛暑続きに急ぎょ屋内の冷房室に移動。涼しいところで実施したのは正解であった。

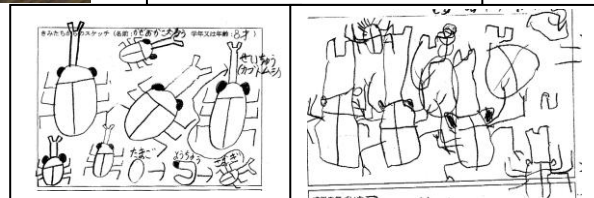
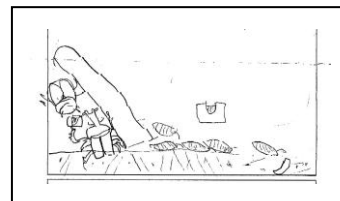




どんなのを作るか構想はできたかな…。小枝の形をうまく選んで足にしたり、頭や胴にするんだよ。



いろいろな形の作品が出来てきた。なかなか豊かな発想しているよ。



できた！

後日子どもたちから届いたカブトムシのスケッチ ありがとう。

次の観察会は 10 月 28 日(日)
今年生まれてくる幼虫の観察と、春・夏の緑の山とは違った秋の里山の自然を体験・観察しながら楽しめます。

この事業は、平成 30 年度子どもゆめ基金の活動助成金で実施しました。